



題字・松尾金蔵書
発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<http://www.shuyu.gr.jp>



「折り」
渡辺百合世（S34年卒）作

ステンドグラス・ガラス工芸作家
日本建築美術工芸協会会員
主な作品収蔵先
東洋学園大学流山キャンパス
新体育館（壁面パネル）
東急ハーベストクラブ（旧軽井沢）ステンドグラス
（樹形）本社ビル（ステンドグラス）
石川県能登島ガラス美術館（立体）
豊島区・聖母奉猷修道会（ステンドグラス）
作者ホームページ
<http://www8.plala.or.jp/yuri-glass/>



東京修猷会副会長
長野 偵士
(昭和29年卒)

明けましておめでとございます。
二十一世紀の到来を期すのはつい先日のことだと思っていたのに、早くも今年には二〇〇三年を迎えることになりました。
新世紀を迎えるに当たって、多くの人は、素晴らしい世紀が訪れることを期待していると思います。しかし、世界の平和、環境問題、日本の政治、そして経済。更には若者達の道徳の荒廃に犯罪の増加。全てがどんどん悪い方向に進んでいるようです。
このことは特に意外なこととは思いません。先日、ある先輩から、「長野君、この世の中で最も人生が送れるのはせいぜい君たちの世代くらいまでじゃないか。我々の子供や孫の世代になるとあらゆる意味で惨憺たる世の中になるとうな気がするんだが。」と言われました。実を言うと、私は二冊目の本を出版するとすれば、そのテーマは「人類は如何にして滅びるか」だと思っているのです。
テロ、報復、そしてテロ。チェルノブイリの何倍もの規模が予想されるロシアの原子力事故。アウシュビッツのように五分では死なないが、数十年の緩慢たる死を招くガス室と化した東京の街。中国

の一人当たり所得が日本なみになった時に予想される空気や海の汚染。どれをとってみても悲観的にならざるを得ないものばかりです。マンモスは体が大きくなり過ぎて滅んだように、人類は知能が発達し過ぎてために滅びることになるのです。
冬は完全暖房、夏は完全冷房の生活が自然なものだと思いませんか。神の摂理を無視した生活を続けていて天罰を受けないはずがありません。人類は、神が生命の誕生以前に地球の奥深く埋め給うた有害物質をわざわざ掘り起こしては地球中に撒き散らしているのです。
私は社会に出るに際して、貧しい日本を、そして日本人を、少しでも豊かにするために力を尽くしたいと思っています。しかし、四十年経った今日、大勢の人々の努力にもかかわらず、我々の愛する日本は、そして社会は、何という悲惨な状態になってしまったことでしょうか。我々の努力してきた方向は根本的に間違っていたのかと思わざるを得ません。
人間は自己本位で安易に流れ易い動物ですから、そんなことを指摘されても簡単に生き方を変えることはいけません。まして、人口数十億の世界がその進路を

変えることは絶望的だという気になります。しかし、それでも一歩一歩こつこつと努力して行くしかないのです。
このようなテーマと較べると、自分の身近な問題を改善していくことはさほど難しいことではありません。
我々は、生きていく上で、いくつかの輪の中で暮らしています。同窓会は、我々を縦断的に結びつける絆です。日本では、戦後、昔の地域社会に替って、企業ごと、職域ごとに社会を構成するようになりました。我々は基本的にはこれらの社会ごとに生息しているのですが、時にその閉鎖社会を超越した視点を持った交友を広げたりしたくなるものです。勤める企業によって物の考え方やマナー型にはめられてしまふなんて情けない限りではありませんか。そのような時、同窓会は大変貴重な場になります。特に、総会、二木会、会報、そしてホームページと四つのチャンネルを持った東京修猷会には、世間を例を見ない同窓会だと言えます。そして、この四つのチャンネルいずれもが、最近の幹事学年の諸君の努力によって大幅に改善されました。
私の知人でこんな人がいました。「私の周囲にはやたらに修猷館が居るんですよ。そして、それらは全員二言めには私は修猷館だと言いやがるんです。私はあんまり癪にさわるんで言っちゃったんです。お前等は高卒かっけ。」
私自身もそうなのですが、思い当たる人も結構多いことでしょうか。どうして真っ先に出身高校なのか。それは、自分の出身校の中で修猷館が一番好きだからだ。そして、この皆の大好きな高校の同窓会はボランティアによって運営されているのです。だから、この会を運営していくためには全員が相応の負担を背負う覚悟が必要なのです。そして、それだけの値打ちのある会にしていきたいものです。
思いつくままに書き綴ってみました。およそ新年の挨拶らしからざるものになってしまいました。しかし、お目出度い、今年も良い一年でありますようにと折れば良いというものでもあります。
それでも最後に一言。皆様にとって良いお年でありますよう。

東京修猷会二〇〇三年活動スケジュール

（二木会は毎月第二木曜日
6時から食事7時から講演）

1月

会報発行 元旦に全会員に送付

1月9日 二木会 於：学士会館

吉武民樹（昭和四二年卒）

厚生労働省 年金局長

2月

2月13日 二木会五百回記念 於：学士会館

3月

3月13日 二木会 於：学士会館

下旬 常任幹事会（決算見直し、総会内容発表等）

4月

4月10日 二木会（新人歓迎会） 於：学士会館

5月

4月20日 二木会ゴルフコンペ 於：学士会館

6月

5月8日 二木会 於：学士会館

7月

6月6日 総会 於：日本都市センターホテル 18時から

9月

7月10日 二木会 於：学士会館

10月

9月11日 二木会 於：学士会館

11月

10月9日 二木会 於：学士会館

12月

下旬 常任幹事会（総会報告、来年度総会計画発表等）

12月

11月13日 二木会 於：学士会館

12月

12月11日 忘年会

このほか、執行部としては、総会準備のための幹事学年との打ち合わせ、会報編集会議、他支部の同窓会総会への出席など随時行っています。

海洋科学技術センター
と三年生の夏休み

井上 浩

(昭和四〇年卒)

去る八月七日、海洋科学技術センターは、修猷館二年生夏季研修の一環として約九〇名の訪問を受けた。この研修は、つばや東京地区の様々な組織・機関を訪問し、一瞬だが実社会を覗き、彼らの進路決定の一助とすることを目的としている。じつに素晴らしい企画。

海洋科学技術センターは旧科学技術庁傘下の特別認可法人で、日本の海洋研究の中心である。「しんかい二〇〇」「しんかい六五〇」「うらしま」等の潜水調査機器を九基、それらの母船および調査船を五隻有する世界有数の海洋研究所。横須賀市に本拠地がある。

この船団にさらに世界最新鋭の科学掘削船「ちきゅう」が近々加わる。この船は固体地球をさらに深く知ろうとする壮大な「国際深海掘削計画」の強力な武器となるもので、まず水深二〇〇〇m級の海域で海底下七〇〇m近くまで掘り進む。将来的にはマントル物質を採取するために水深四〇〇〇m海域で超大深度掘削に挑戦する。

修猷館卒業生がたまたま当センターに出向し（四十七年卒の和田氏と筆者）この「ちきゅう」建造と運用計画に関わっているのだ、その二人で「国際深海掘削計画」の趣旨と「ちきゅう」の特徴につき現役生諸君に紹介した。

現修猷館は二年生の段階で既に文系と理系に分かれており、今回の訪問は理系の二クラスであった。女生徒が一／三を占めている。彼らは、東京や横浜でよく見る高校生とは違い、茶髪はいないし、ピアスをしている者もない、ルーズソックスも無し。非常に清潔感にあふれていた。特に女生徒はあの背中に星のマークの白いセーラー服のせいが背筋がピシッと伸び、

男生徒に比べキリリとした印象を受けた。

その日は研修の最後の日であったので疲れていたのか当初はおとなしかったが、センター内設備の見学に移るとだんだんとエンジンがかかってきて質問も飛び出すようになった。午後は、横浜市にある当センター付属横浜研究所の世界最高速のスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」を見学。母校からは来年も当センターを訪問したいとの声が聞こえてきたので、卒業生としては責任の一端を果たしたものと安堵した次第。

同窓の諸兄諸姉にはぜひ海洋に興味をもっていただき、海洋科学技術センターのホームページにアクセスされるよう希望します。我々を恐怖の底に陥れる巨大地震は海洋の底深くでの岩盤の破壊が原因であり、温暖化などの地球環境の問題は、大気と海洋と個体部の相互作用が分からなければ理解できません。光と酸素がないにもかかわらず地球深部にも大量の微生物が存在していると言われていま

ます。それをすべて手がけ先端的な研究をしているのが海洋科学技術センターです。ぜひアクセスしてみてください。
<http://www.jamstec.go.jp/>

四〇〇人を引き連れ上京
「自分探しの旅」

一年、二〇年後を踏まえ

鹿野敬文
(昭和五一年卒)

修猷館は学年のテイストの違いがかなりはっきりしている学校です。三つのカレッジが併存している学校と形容されることもありま

す。これは、修猷館で働かなければ気づかない一つの大きな特徴でしょう。四〇〇人の生徒をどのようにに教育していくのかの理念作りから始まる三年間は、各学年に所属する教員集団に任せられた大きなプロジェクトなのです。真の成果

は卒業後に問われると考え、私は

ちは一〇年後二〇年後を踏まえた教育プログラムを組んでいきます。平成七年に始まったつば・東京研修旅行（二年生全員参加）も昨年で八回目になりました。私は三回参加しましたが、今回は学年主任という立場で企画段階から深くかかわりました。学年としてのテイストを踏まえて、この研修旅行をどのように位置づけるのか。

学年団を構成する二〇人の先生方と意思疎通を図り、三泊四日（昨年は八月四日・七日実施）のプログラムを作ってきました。この学年の狙いは、「二十一世紀型の博物館見学（及び研究者と対話する実験工房参加）」、「事前学習を踏まえた企業・官庁・研究所での研

修、「日本最大のテーマパーク訪問」、「見てワツと息を呑むような日本を代表する施設の見学」となりました。まず、訪問先として協力していただける企業・官庁・研究所探しから始まります。そして、研修内容の確定に入っていくのです。一方、生徒たちは一年生の九月から、各研修先から送られてきた資料をもとに、全訪問先についての大きな勉強を始

めます。これを踏まえて五〇近くある訪問先リストの中から自分の行き先を三月に決定します。そして、四月からはその訪問先についての詳しい勉強会を各研修顧問の指導のもとで実施するのです。

もちろん、こうやって勉強した分野に各生徒の進路先がそのまま決定する訳ではありません。しかし、「一体、自分は何に向いているのか」「自分はどのような人生を送りたいか」などについて深く考える機会が高校時代に

卒業生のご協力があったからこそ初めて実施できる修猷館独自のものなのです。この企画に賛同し、新しく協力していただける卒業生の方がいらっしやいましたら是非ご連絡下さい。宜しくお願

い申し上げます。（修猷館教諭 英語）

現役修猷生の
会社訪問

藤本昌義
(昭和五一年卒)

昨夏、現役修猷館高校生四三〇人とお会いする機会を得まし

た。これは昭和三十六年修猷館卒業の西村英俊さんが昨年の六月より当社（日商岩井）社長に就任されたことと、修猷館で同期生

鹿野敬文君が二年生の学年主任となり、筑波研修旅行の責任者

だったという偶然が重なった結果でした。西村社長が後輩諸氏の前で講演をすることになり、

当社の修猷卒業生も会場に集まり、後輩諸氏の質問に答えようという試みがもたれた結果でし

た。西村社長の講演は「十点はどこへ行った」という題目で、これは修猷に入ってから来る時は、福岡高校より入試の成績で十点ほど高かったが、出る時は同じくらいの点数になっている。じゃ修猷館の三年間は何をしていた

のかというところから、修猷館の教育理念を問いつけた内容で

した。修猷館というのは、普通の進学校とは違い、先生も進学率を争い生徒に勉強せよという

ようなことは言わなかった。非常に自主独立を重んじる教育方針であり、生徒の方も知識だけを学ぶのではなく、文化祭や運動会という生徒の自主的な活動

の中で、人間関係を通じ豊かな常識を学んできた。これが社会に出て、様々な国の人々とビジネスを行うに当り役立つのは普遍的なことであり、場所が変わると知識も変わる。知識のみを詰め込むのではなく、生徒に自主

独立性を重んじ、「猷を修む」事を教えてくれた修猷館での三年間が役に立ったという内容でした。（筆者理解です。）

講演に引き続き、当社修猷館卒業生が、在校生諸氏の質問を受け付けました。質問内容は、「社会人になって高校で学んだこととどういう事が役立ったか」「商社のビジネスの内容」「商社

が投資をする際の判断基準は」

等々。筑波研修旅行は、昨年で八回目とのことですが、我々の時代には夏休みに各企業を回る研修旅行などなかったなと思いつつ、当時自分が、将来についてどの程度真剣に考えていたかと振り返れば、「竜馬が行く」といった小説の影響で漠然と世界を舞台に活躍したいとか

スーパーサイエンス
ハイスクール（SSH）
の取り組み

SSH推進委員長
福泉 亮

東京修猷会のみならず、はじめまして。母校修猷館は昨年度より三年間、文科省のSSHの研究開発校に指定されました。

昨年一月に文科省から募集があったとき、学内では名乗りを挙げたかどうかわからないもありましたが、前館長の「修猷には、修猷のためなら、という同窓生が数多くいらっしやるから」という一言に勇気づけられ一歩を踏み

出しました。修猷SSHは大きく三つの事業があります。

(一)SSHハイスクール（広げる）
全生徒を対象にした、学校全体での取り組みです。創立記念日の「進路別研究会」、二年生の「つくば東京研修」、土曜日を

活用した「出前講義」など。また来年度より始まる「総合的な学習の時間」、教科「情報」を、大

学につながる資質（意欲・論理的思考力）の育成の場として研究しています。

(二)SSクラブ（楽しむ）
放課後や土日を利用したクラブ活動です。今年度、「天文」「情報工学」「ロボット工学」「ガラス半導体」「生化学」「分析化学」「遺伝子工学」「組織培養」「数学オリ

の講義、二年生には「宇宙工学」をテーマにした講義やロケット打ち上げ見学などをおこないます。「修猷から宇宙飛行士を」が一つの目標です。

東京修猷会の方々には次のようなお願いがあります。

(一)「つくば東京研修」の研修先
東京修猷会の会員のご協力で、毎年充実した研修をおこなっておりますが、来年度はSSHの関連事業として実験実習を中心にした終日の研修を考えております。受け入れ可能な大学・研究施設がありましたらご連絡いただけないでしょうか。

(二)土曜日「出前授業」での講義
創立記念日に大同窓会担当学年のご尽力により運営されている「進路別研究会」を延長させていただきます。希望者が対象に随時土曜日に開講可能です。ロボカップのときには、早稲田大学の高西教授に来ていただきました。帰福の際にぜひお願いいたします。一ヶ月前にご連絡いただければ準備します。同窓生の方々の「出前授業」を聞いた在校生が、やがてまた講師として修猷に戻ってくる、そんな事業に育てていき

たいと思います。現在、修猷館高校のホームページにSSHのサイトを準備中です。ここには同窓生に向けて教育支援をお願いする「お助けサイト」を作る予定です。生徒からの質問に直接答えてもらったり、同窓生から情報やアドバイスを提供していただける「バーチャル修猷館大学（仮称）」の立ち上げなどを考えています。ぜひご協力をお願いします。

(三)SSセミナー（深める）
意欲のある生徒たちを対象に、欧米の優れた才能開発教育（例えば国際バカロレアなど）を参考に、論理的思考力や創造性を高めるプログラムを研究します。

一年生には、英語による数学

第十一回
東京修猷二木会ゴルフ
コンペのご報告

第十二回二木会ゴルフコンペは、幹事の心がけが悪いのか今にも泣き出しそうな空の下で二月二〇日（日曜日）、千葉県成田市の「白鳳カントリー倶楽部」において藤吉会長以下、二十八名の参加で開催されました。

当コースの総支配人を勤められる中川洋三先輩のご厚意により、素晴らしいコースでリーズナブルな料金で開催でき、しかも楽しさ一杯の賞品をご準備頂きましたこと改めてご報告のうえ、御礼申し上げます。

今回も、昭和四八年卒の先輩など初参加が多くハンディ戦ではなく、新ベリア方式を採用、誰にでも優勝のチャンスがあると思われておりましたが、並み居る強豪諸先輩をものともせず昭和五三年卒の若手、阿部次郎さんが見事に優勝されました。グロス一〇三、ネット七四・二というスコアで新ベリアでのハンディをフルに生かした優勝であったといえます。

準備は、昭和四六年卒の岡部公一さんが、ベスグロの昭和六六年卒の中川洋三さんを押さえ、獲得されました。中川さんのグロススコアは八六で、さすが地主さんという面目躍如でした。女性ベスグロは、昭和四四年卒の甲斐真知子さんが、グロス一〇七と前回よりも四打も縮めたスコアで栄冠を手に入れました。

昭和五五年卒伊藤洋子さんの連続出場記録は更新されましたが、かなりの精進を誇っていた山下政比呂さんが何と日にちを間違えて別のゴルフ場で、二木会コンペの練習に行っていたという悲しい話もありました。

いろいろあつて楽しい大会となり、お天気も参加諸先輩のおかげさまで何とか雨が降らずに終了できました。幹事の不手際も心げの悪さも全てお許し賜り、おかげさまで素晴らしい大会になったことを、深く感謝申し上げます。

第十二回二木会コンペは、平成十五年四月二〇日（日曜日）に、神島谷カントリー倶楽部での実施を予定しております。皆さん奮ってご参加の程、お願い致します。

第十一回二木会ゴルフコンペ
幹事 桐明幸弘 記



日本経済 行き詰まりの原因は？

柴垣和夫（昭和二十七年卒）

二一世紀も三年目の正月だが、お屠蘇の味がほろ苦い人が多いのではない。一九九〇年代の「失われた十年」が、一三年にも、一五年にもなりそうなのである。

の族生がそれを示している。

しかし、それ以上に罪深いのは、日本の歴代政府や財界、ジャーナリズム、そして経済学者の主流が、この行き詰まりを米国の新自由主義、市場原理主義への無批判的迎合によって打開しようとしていることにある。新自由主義＝市場原理主義は、アブセンティズムに陥っていた欧米諸国には、市場規律の回復を促すという意味があったが、日本には無用のものであった。歴代政権は、日本経済の内部にその必要性が乏しかったにもかかわらず、日米経済摩擦の後遺症もあってこの流れに迎合した。しかし、その施策が殆ど裏目に出たことは今日明らかである。自由競争は、確かに資本主義経済のダイナミズムを促進するが、同時に弱肉強食の世界を拡大する。そこでは自己責任と自助努力が強調される。その結果、企業はリストラ、家計は消費の抑制へと、ひたすら自己防衛に走ったのだ。

従って、いま必要なのは、経済のミクロレベルでの「安定」であり、それによって生み出される「安心」である。この安心は、家計レベルでは将来不安の解消である。医療・年金・介護の充実と個人貯蓄の安全保障など、これらを進められてきた施策と正反対の措置が採られなければならない。もっとも、これによって景気も大幅に回復するという主張には誇張があるが、ゼロ成長を維持するくらいの効果はあるだろう。そして実はこのゼロ成長こそ、宇宙船地球号維持のために、意識的にも追求しなければならない課題なのである。人口がほとんど増加しない日本でのゼロ成長は、生活水準の低下をもたらすものではないからである。

（武蔵大学教授、東大名誉教授。著書「知識人の資格としての経済学」（財務省印刷局）ほか）

同窓生の車

「子どもの心に耳をすませ」

梅村 浄

（昭和三十八年卒）
岩波書店 一八〇〇円

私の生まれた家は福岡市内の住吉にあります。「どうして、博多駅の近くに住んでるもんが、修猷にいきたつちやろか？」

最近、私は心に耳をすませて



その疑問はさておいて、池の端に住んでいた私は宗吉つあん（佐田先生）と黒ちゃん（石橋先生）が抱りあげた二本の一升瓶を下げて、我が家をめざして、池の向こうからかけつけてきた姿をありありと覚えていて、全く思いがけなく九州大学医学部に合格した生真面目な女子生徒への、二人の担任からのエールとして、ずっと私の心の底に沈んでいたイメージです。一升瓶二本をもらった後、私は小児科医師となり、三人のこどもの母となり、現在に至りました。

昨今、岩波書店から「こどもの心に耳をすませ」という本を出しました。医学や心理学は、こどもの身体と心を正常と異常に区分けします。異常と診断されたこどもは、治療されますが、治療もできないと診断されたこどもは、医学や心理学からほうり出されてしまします。その境目は大人の傲慢な価値観に彩られているにもかかわらず、何か公正で親切なことのよう受けとめられています。

この本は、二〇〇〇年夏に夫との共著で出版しました。心理学の研究者として二人で研究して分かったことは、事故を防止するために、病院にはハードとソフトの両面で改善すべき点が多いということ。そしてそれと同じくらい重要なのは、患者がただ事故を恐れたり、病院を批

判したりするのではなく、医療チームの一員として役割を果たすべきだということです。そのような意味で、医療職だけでなく一般の人にも読んでいただきたい、あえて医療の専門書ではなく、一般書として朝日新聞社から出版しました。

エラーの発生要因から事故調査や当事者へのサポートのあり方まで、幅広く問題提起しているところがセールスポイントです。

幸い、医療職の方から「問題点がわかり易い」「励まされる」と言っていたので、リスクマネジメントの研修会のテキストとしても使っていたいと思います。

夫は慢性骨髄性白血病で二〇〇二年二月に五〇歳で亡くなりました。八ヶ月の入院中、私も家族として医療を体験し、事故で傷つく患者・家族・医療職を減らしたいという気持ちが一層強くなりました。夫の遺志でもある研究や研修などの活動を続けていこうと考えています。

医療関係者の立場で、「一読い

「医療事故―なぜ起るのか、どうすれば防げるのか」

山内桂子・山内隆久

（昭和四十八年卒）

朝日新聞社 一三〇〇円

「ふたたびの雪」

原口真智子

（昭和四十五年卒）

講談社 一六〇〇円

（二月中旬刊行予定）

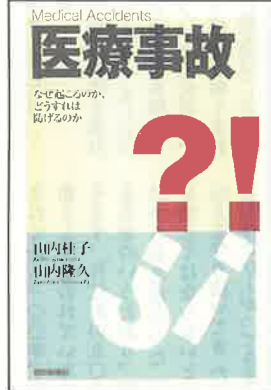
人のこころの海底に、ぼつんと湧いたあぶく。誰の胸のうちに、ほんのささいな疑いや嫉妬。それが何も引き起こさなければ、すぐ

に忘れ去ってしまふでしょう。でも、もし、重大な結果を招いたとしたら――という設定で始まる物語を書きました。これまで百枚前後の作品で一杯の水があれば、人は救われるんですから。例えば、ドラマでの食事のシーンで、俳優たちが口に料理。専門の担当者がいることを私は本書で初めて知った。その道三十年で、俳優の好き嫌いは必ずチェックするという。こうした関係者の「思い」を、本書の中で長野君は丹念に描き出している。「だつてまずい物を口にしたら顔に出ちゃうでしょ？ おいしい物を食べた方が俳優も自然とよい表情をしますからね」（本書より）

「恋とは聖なる狂気である」と書いたのはプラトンでしたが――考えてみれば二十年以上前から、人は堂々巡りをしてきたらしくて――私たちのこころから生まれる愛情というものは、そうした激しさを持つと同時に、また、はかなく弱いものでもあるようです。なんといっても愛は、信じなければすぐに消えてしまふほど哀しいものなんです。か？ 人は愚かで、くだらなくて、孤独で、その上困ったことに、淋しさには耐えられないようにできているのしょう。一体どう迷ったのか、砂漠の真ん中で、歩き疲れて倒れてしまふ。渴いて、干からびて、死にそうになる。そんな気持ちになったことは、誰も一度や二度ではないで

映像業界の「裏方」たちの仕事ぶり、番組づくりへの情熱を伝えるものだ。その数一四一人。有名番組のプロデューサーなど業界ならではの人間味あるものに思えてくる。映像に多少なりとも興味がある人には是非読んで欲しい一冊だ。

井手 昇（昭和五十八年卒）



「ふたたびの雪」

原口真智子



「裏方の裏方」も紹介されている。例えば、ドラマでの食事のシーンで、俳優たちが口に料理。専門の担当者がいることを私は本書で初めて知った。その道三十年で、俳優の好き嫌いは必ずチェックするという。こうした関係者の「思い」を、本書の中で長野君は丹念に描き出している。「だつてまずい物を口にしたら顔に出ちゃうでしょ？ おいしい物を食べた方が俳優も自然とよい表情をしますからね」（本書より）

仕事あ・れ・こ・れ

今、家業を継ぐじいちゃん

川嶋郁子（昭和四八年卒）

私の実家は、宗像市赤間まで勝屋酒造という小さな造り酒屋をしていました。創業は寛政二年（一七九〇）古くから交通の神様として知られる宗像大社の御神酒を納めてきました。酒名「檜の露」は御神木の檜の木からいただいたもので永代献酒の誓碑は今も御神木の傍らにあります。

東京修猷会総会の懇親会に清酒「六光星」を納めさせていただいてますのでお飲みいただいた方も多かろうと思います。「六光星」は私共四八年卒が幹事学年の時、修猷ブランドのお酒があったらとみんなで企画し、後輩の方々が引き継いでくださいました。前四五年卒の方々は中嶋さんのデザインのラベルで



事総務畑二五年の夫はこの一月から酒屋の主人兼蔵男見習として、また私は三月、娘の高校卒業を待つ東京生活を引く、家業を継ぐことになりました。もうあと少しで五十歳を迎える夫婦にとっては自他共に認める無謀、前途多難どころではないというスタートです。

しかし、地元根を下ろし昔ながらの方法に少しづつ新しい風を入れながら、おいしいと言ってもらえるようなお酒を造っていきたいと思っています。

「赤間に帰る」と宣言をしてから、先輩方や四八年卒しつと一や会の面々からいただいた励ましやアドバイスはどれもありがたもので、早春の酒蔵開放には大勢集まってくれました。今後はともだちの皆様にいろいろご教示いただければ幸いです。ご挨拶の機会がございましたら是非お立ち寄りください。お待ちしております。

<http://www.katsuyashuzo.com>

それは、昨年の人事異動から始まった。六月に今のセクションに着任したとたん上司から「来月のサンフランシスコの自慢のむぞ。九月には北京もあるから」と言われてからである。海外で「のど自慢」。実施しているのは知っているが、まさか自分が担当するとは……

下準備、現地での打ち合わせ等は前任者が済ませていたため、サンフランシスコは、いきなり本番に出向くことになった。「なんだから」――最初に会場をみたときの驚き――巨大な体育館である。アリーナ席（一階）の約二〇〇〇席はすべてパイプイス。のど自慢は指定席で実施するの、どうやって指定席にすればよいのか？目の前が暗くなる。会場の人は「大丈夫です。黒板に書いてあるのよ」とよくみると、パイプイスの裏面にちいさな黒板がついているではないか。つまり、パイプイスがはねあげられている状態。

さて、次は北京である。かの国は時差も少なく肉体的にはアメリカに比べるとはるかに楽なのであるが、これでもかという位にわかれの常識を超えた難題を持ち込んでくる。下見に行ったあるときの向こうの役所の係官との会話である。

中国側「NHKさん防火の準備はどうなってますか？」

日本側「避難経路等はきちんと確認してあります」

中国側「そうではあります。消防車はどうしますか？」

日本側「消防車？」

中国側「われわれのほうで念のため消防車を待機させます。ついでに費用は〇〇元になります。」

日本側「……」

また、イベント当日は入場券を持たずにやってきて、「私は誰々の友達です」「私の友達が出場しています」と言っても当然のように入場しようとする。もちろん丁寧におひきとりいただいた。

このように、習慣の違い、言葉の壁があっても、米中ともにイベントが成功したあと、お互いのスタッフが肩を寄せ合い、感謝の言葉をかけあって、うまい酒を笑顔で酌み交わし続けたのである。草の根の友好活動に貢献することができたことは間違いないことである。

御神忌千百年大祭

西高辻信良（昭和四十七年卒）
太宰府天満宮宮司

平成十四年は、御祭神菅原道真公が天神さまとなられてから、ちょうど千百年目の大節目にあたり、御神忌千百年大祭を斎行いたしました。

この大祭は、太宰府天満宮をはじめ、全国の天満宮が二十五年以上に亘る「式年祭」です。

二十五年ごとに式年祭を斎行するのは

「二十五」という数が菅原道真公と縁の深い数だからです。道真公の誕生は承和十二年（八四五）六月二十五日、太宰府の地で生涯を閉じられたのが、延喜三年（九〇三）二月二十五日でした。

明治三十五年に斎行された御神忌千百年大祭は、時代背景もあって、まさに国家行事といえるほど盛大に行われていました。御神忌大祭を斎行することには、天神信仰の悠久の歴史の中で、大祭を契機として、生命の蘇りをし、ていくという意味があります。

天神様が永遠にお鎮まりになる天満宮の本殿を中心とする建造物群、それを取

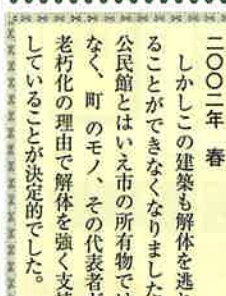
り巻く神苑の樹木、そして人々も再生されて甦り、瑞々しく新しい力を得て、天神さまがさらに一層神威を増すというわけですね。またこのことが祭神の神徳を現代に伝えることが、宮司としての私の責務です。自然に包まれ、神様に包まれ、人に包まれることの幸せ、本物の豊かさを実感していただけるお社づくりに、今後も励んでゆく所存です。

<http://www.dazaitenmanguo.jp>



天神様が永遠にお鎮まりになる天満宮の本殿を中心とする建造物群、それを取

天神信仰という火を消すことなく継承し続けた祖先に感謝しながら、さらに一人でも多くの方がこの不易な空間で



江陽館の保存の現場から
高木正三郎（昭和六三年卒）

二〇〇一年十二月

明治時代の修猷館の校舎が残っている、という話を聞いたのは寒さの深まる歳の暮れでした。それは福岡市片江町で江陽館という公民館として使われていました。しかし話は数ヶ月後に解体されるというものでした。私自身、建築の専門分野に関わる者として、その保存に働きかけることは、当然でした。

知っている修猷館に声を掛け、意見を聞き、壊さずに残して使う方法を自ら提案し、新聞に掲載を依頼し、大騒ぎとまでいかなかったと、小騒ぎしました。

二〇〇二年 春

しかしこの建築も解体を逃れることができませんでした。公民館とはいえ市の所有物ではなく、町のモノ、その代表者が老朽化の理由で解体を強く支持していることが決定的でした。

西日本新聞に解体されるといふ事実が掲載されてから、余命数週間の江陽館を見に来る人々を散見することができました。今、建築の分野では、長く生き延びてきた歴史的な建造物を大事にするの、それがその場所の文化になるのだという考え方を押し広げようとしています。江陽館は、我々卒業生が母校の歴史の重み、良い意味での誇りを肌身で感じるための道具であったと思います。心の中の記憶だけ想像するよりは、モノとして残っていた方が断然伝わりやすいからです。江陽館は完全に跡形も無くなりそうですが、モノを残すべきという上記の思いがあり、屋根を支えている、直径七〇センチほどある立派な梁材六本を個人的に買い受けています。

これらの使い道、資金さえあれば、例えば家具にして修猷館に寄贈するなどが考えられます。これに関するアイデアやお力を寄せていただければ、このうえない幸せです。

東京修猷会 2003年度総会のご案内

2003年6月6日（金）午後6時より

於：『都市センターホテル』

～ 平河町：日本都市センター会館内 ～

（<http://www.toshicenter.co.jp>）

新卒者は会費無料！ 学生は3,000円！

みんな来んしゃーい！

会場が変わったと

企画テーマ

～ ローカルからグローバルへ ～

世界へ広がる修猷ワールド

世界各地で活躍する六光星たち！！

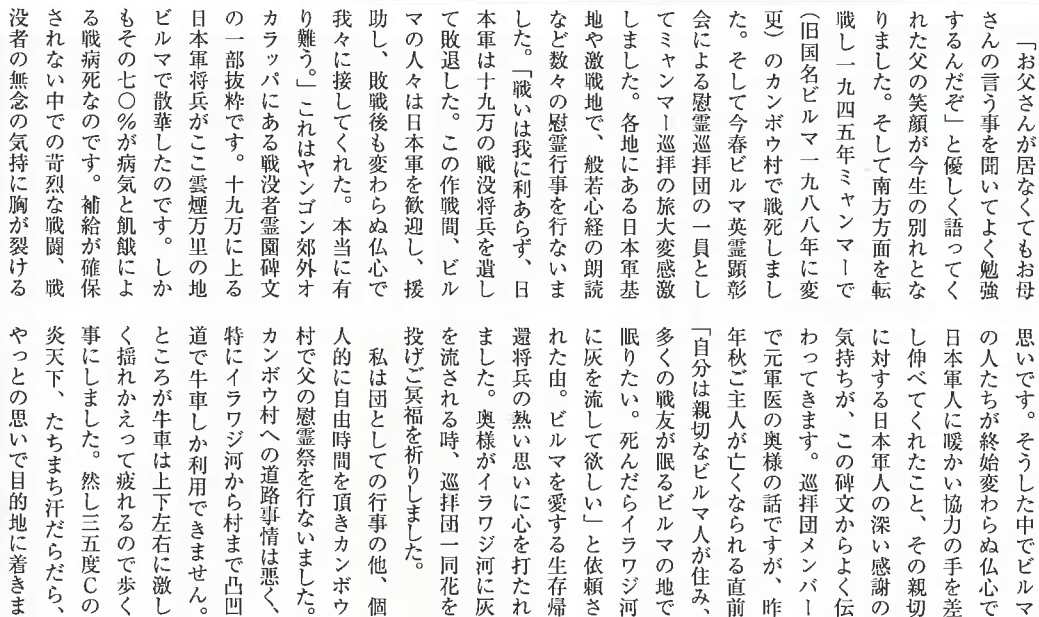
修猷のグローバル化を浮き彫りにする

招待恩師

牧野先生（国語）、西川先生（英語）、長瀬先生（地学・物理）

幹事学年：ごじゆうに会（昭和52年卒）

石田 洵一（昭和二六年卒）



いのです。そうした中でビルマ人たちが終始変わらぬ仏心で本軍人に暖かい協力の手を差伸べてくれたこと、その親切に対する日本軍人の深い感謝の持ちが、この碑文からよく伝ってきます。巡拝団メンバーは元軍医の奥様の話ですが、昨秋ご主人が亡くなられる直前、自分は親切なビルマ人が住み、多くの戦友が眠るビルマの地でいたい。死んだらイラワジ河に灰を流して欲しい」と依頼された由。ビルマを愛する生存帰將兵の熱い思いに心を打たれた。奥様がイラワジ河に灰を流される時、巡拝団一同花を下げ冥福を祈りました。

私は団としての行事の他、個人的に自由時間を頂きカンボウで父の慰霊祭を行いました。ところが牛車は上下左右に激しく揺れかえって疲れるので歩くにしました。然し三五度Cの天下、たちまち汗だらだら、つとの思いで目的地に着きました。このような炎熱の地で物量豊富な米英軍と少ない武器を手に入死闘を繰り返した日本軍将兵に頭の下がる思いがありました。カンボウ村の小さなバゴタの一角で父を含む六人の方々が戦死し永遠の眠りについていました。その場所で慰霊の法要を営みました。高僧一人を含む五人の僧侶、住民約一〇〇人の参加を得て盛大なものとなりました。村民全員、高僧のリードで熱心にお祈りを唱和してくれました。多

を肌で実感しました。又人々の九〇%が敬虔な仏教徒で性格も溫和です。戦後ビルマ独立のリーダーになった人達の多くは日中で教育を受けた人たちです。現在ミャンマーは世界でも極貧国の一つです。その上西側諸国からの経済制裁を受け大変困っています。ミャンマーの識者の多くが、軍事的野心のない日本の経済協力を期待しています。戦中戦後、私達の肉親がビルマの人達から受けた数々の親切をお返しする為にもミャンマーの期待に応えるべきではないでしょうか。

.....

ワルトフマンソンを
坪内俊之（昭和四

昨夏二年越しで、「北海道縦断遠足ジャーニーラン（往路、復路）」を完走した

(<http://www.nrc.jp/asahi/no-niso/jrc/>)

この大会は今年で六回目、NHKテレビのドキュメンタリーやドラマで放映された事があるので、ご存知の方も居ると思うが、往路は宗谷岬から幌延、羽幌、北竜、栗山、富川、三石泊で襟裳岬まで五三四km、復路は襟裳岬から忠別、新得、富良野、旭川、美深、浜頓別泊で宗谷岬まで五五五kmを、それぞれ七日間で走る。今年は、往路十七名、復路四十四名、うち往復七名が参加した。

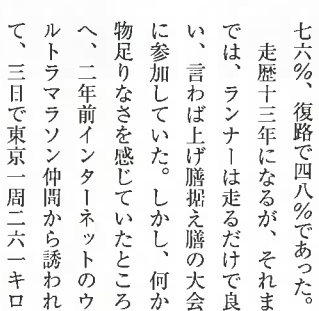
大会方式は、①大会中に必要な荷物は全て持って走る、②途中の給食給水は全

坪内俊之（昭和四五年卒）



後提出する、というものであるが、「参加者自身が主催者となり、大会を実施する」のであって、呼び掛け人はコース設定をするのみで、後はすべて自己責任で走り旅を楽しむのである。

荷物を極力軽くするのがコツで、走る服装はお遍路さん宜しく毎夜洗濯し、使い終わった地図は毎日自宅に郵送した。制限時間から分る様に、これは競走ではなく、自然を肌で感じ、時にはビールで喉を潤し、景色を楽しむながら自分と対峙しつつ、ゆっくり足を進めるのが趣旨である。とは言っても、毎日平均八〇キロを七日間走る長丁場なので、足や体への負担は大きく、完走率は往路で七六%、復路で四八%であった。走歴十三年になるが、それまでは、ランナーは走るだけで良い、言わば上げ膳据え膳の大会に参加していた。しかし、何か物足りなさを感じていたところへ、二年前インターネットのウルトラマラソン仲間から誘われて、三日で東京一周二六一キロ



（五〇〇回を前に）

（五〇〇回を前に）

二木会は二〇〇三年二月に五〇〇回を数えます。東京修猷会・二木会はどのような経緯で現在のようになつたのでしょうか。〇二年総会幹事学年を務めた昭和一年卒は、総会企画の取材過程で大正十五年に中学修猷館を卒業された佐賀県基山市在住の三嶋利美大先輩から貴重なお話を聞くことができました。

三嶋大先輩は九大経済学部と同法学部で学ばれ司法試験に合格、昭和八年に内務省地方局勤務となつて上京され東京と地方を転勤で行き来されていたそうです。同二十三年には建設省から福岡県庁に配属され、その後、住宅公団フジタ工業に勤務された経歴をお持ちです。

三嶋大先輩は、第二次大戦終戦前後について「東京近郊

気取らずに寛げる
都会のオアシス

ちまたでチェーン展開している某カフェとはひと味もふた味も違うのが、二〇〇二年四月に稲田大学の西門近くにオープンした「キラキラカフェ」だ。鳥榮二氏（昭和五八年卒）が「ご勸銀のCDコーナー跡地を合意と焼き肉パワーによって、独ハンドメイドで完成させた」。一八〇円とリーズナブルな「ヒー」を飲みながら、大島氏音楽プロデューサーをつとめる「キラキラレコード」の曲（全二〇〇曲！）が楽しめるのだ。

在住する修猷館卒業生は、時それほどこいたわけではなかった。学年で一〇人に一人の割合もいなかった気がする」とり返られます。

福岡県庁に配属されるまで嶋先輩が出席された二木会については「学士会館ではな、当時はステーションホテル、開かれていた。出席者数は、回二〇〇〜三〇〇人だったと記している。自分もあまり出席率がよかったとはいえないが」とおっしゃいます。このころには既に二木会の案内など、京修猷会の事務局的な活動根付いていたのでしょうか。木会の案内などが組織的についていたことがうかがえます。

出席者は「明治年代卒業の輩方がメインテーブルに座っていた。着流し姿のおしゃれな輩もいらつしやうた」とのこと、また内容は「出席者の中から予め決められている方の卓が中心だった」ようです。

三嶋大先輩は「さすがに講演だけでは寂しくもあり、正直うんざりしたこともあったが、ある時、七年上の先輩から声を掛けられ、麻雀に誘っていただいた。それ以後、二木会の後習慣になった」とのことでした。二木会の当時の様子が見えそうです。

東京修猷会の成り立ちにはいろいろな説があるとうかがっています。山王ホテルの佐藤社長の人柄を慕って、東京在住の卒業生が精養軒に集まっていた会が次第に大きくなった。元東邦生命会長の太田清蔵先輩が、ご自分のポケットマネーで開いていた後輩たちとの集いが次第に組織化されていった。等々。大先輩のお話を拾い集めて、東京修猷会の来し方、二木会の五〇〇回の歩みをたどってみたいものです。

（昭和五一年卒 取材・油田哲、文責・中屋裕司）

住所／東京都新宿区三十八五
イオヤビルB
電話／〇三三三五六三三〇
営業／夜八・〇〇〜翌朝七・〇〇
月曜休

平成十四年 二木会 講演記録

第四九〇回 平成十四年一月
鳥飼 一俊（昭和四〇年卒）
株式会社熊谷組 代表取締役社長
『建設業の現状』

第四九一回 平成十四年二月
高西 淳夫（昭和五〇年卒）
早稲田大学理工学部教授
『アイボの先に人型ロボットが見える』
『ヒューマノイド・ロボットの展望』
神田学士会館

第四九二回 平成十四年三月
稲尾 和久
元西鉄ライオンズ投手、野球解説者
『プロ野球四方山話』
『日本のプロ野球の現在、過去、未来』
KKRホテル東京

第四九三回 平成十四年四月
山崎 拓（昭和三〇年卒）
衆議院議員 自由民主党 幹事長
『二十一世紀の新生日本と修猷同窓生』
神田学士会館

第四九四回 平成十四年五月
中川 勝弘（昭和三五年卒）
トヨタ自動車(株)常務取締役（生産、物流担当）
『物作りとトヨタ生産方式』
神田学士会館

第四九五回 平成十四年七月
久保田勇夫（昭和三十六年卒）
ロンスター日本法人会長
『望ましい官僚とは？』
『霞ヶ関の実態を踏まえて』
神田学士会館

第四九六回 平成十四年九月
西村 英俊（昭和三十六年卒）
日商岩井株式会社 代表取締役社長
『中国と米國に駐在して』
『商社マンの目を通してみた両大國の今後』
神田学士会館

第四九七回 平成十四年十月
下田 正弘（昭和五一年卒）
東京大学大学院人文社会系研究科 助教授・文学博士
『古代インドの生死観』
『仏教の誕生・二五〇〇年前のインドの世界』
神田学士会館

第四九八回 平成十四年十一月
松原 耕二（昭和五四年卒）
株式会社東京放送（TBS）『ニュースの森』編集長
『変貌するテレビニュース現場』
『テレビ報道の現状と今後』
神田学士会館

学年だより

はや五〇年になりましたバイ
東京修猷会報告
幹事 松尾正弘
昭和二十八年卒

二〇〇三年には卒業五〇周年を迎えます。六月に福岡で盛大な記念同窓会の後、九州、中国、韓国、の金山、慶州観光旅行を計画しています。私達の年度は皆さん同様コミュニケーションがよく、福岡の修猷会本部の辻博会長と東京の吉見健三会長は緊密に連絡を取り合っており、母校への寄付は早く達成するなど活動しています。東京ではもう四〇年位前から欠かさず毎年同窓会を開催しています。初めは三人でスタートしましたが、現在四〇・五〇人位の同級生が毎週集まっています。関東地区には住所が判明している人は約一二〇人位おり、ある程度現在の状況は各人からお知らせいただいています。同窓会では久しぶりに出席した人、初めての人にはスピーチをお願いしますが、同窓会そのものには特に誰かが話しをするとかの内容はありません。やはり昔に戻って話さうというに徹するほうがよいように思っています。開催日も勤務の都合から長い間二月でしたが、昨年から五月に変更したら、風邪による突然の欠席が減少しました。また毎年宿泊つきのゴルフ大会を開催しています。参加者は二〇人位ですが、伊豆や山中湖でゆっくり宿泊、おおいに飲んで



の中、六名のニューヨーク在住のOBの方々と、ロサンゼルスから初めて参加した私の、総勢七名での三時間ほどの夕食会でした。馬や競馬に詳しい下川氏の熱弁を中心に、時間を忘れるほど楽しいひとときでした。最後は記念撮影で閉会しました。本来ならば修猷の在学生十二名及び鹿野教諭、吉永教諭、末永館長を海外派遣団として迎える歓迎会を兼ねた晩餐会を行うはずでした。直前の六月末に館長よりEメールを頂き、米国内でのテロ再発の危険性を重視し派遣を中止するという連絡があったようです。

ニューヨークは五年前に訪れた時よりも、人々が助け合いの精神に溢れ、また治安も良くなっています。金融、経済、国際政治などに於いて世界の中心であるニューヨークに、過去八十年ほど毎年海外派遣団を迎え、ニューヨーク在住のOBを中心に米国在住のOBより寄付を募り旅費の一部を援助し、証券取引所、国連ビル、OBの方が勤める弁護士事務所、ワシントン

の日本国大使館、朝日新聞支局などを研修する米東部視察団が、在学中にとつてとても有意義なもので、是非今後も存続して頂きたいと強く思いました。参加者（敬称略）水月文明（昭二九卒） 江川清（昭三五卒） 下川次郎（昭四一卒） 尾上博史（昭五〇卒） 長浜圭祐（昭五九卒） 森下純也（昭六二卒） 櫻山ゆかり（昭五七卒）

平成十四年東京修猷会総会
安東泰隆
昭和五一年卒

平成十三年九月十一日の米同時多発テロの影響で、前任の実行委員長が海外転勤になり、同年十二月になって急遽引き受けた実行委員長であった。高校時代は文武双方とも振るわず、同級生にもさほど知名度のない自分としては、性格的にも人の神楽に乗って鷹揚に構えるタイプでもない、実行委員長という名前前にこたわらず、ただひたすら自分のできることは何でも自分でやるしか方法はないと思っていた。

総会の担当学年は五十二年卒業になりますが、すでに昨年から何回も会合を重ね準備を進めています。彼らの十分な調査の上で今年の総会会場は趣向の日本都市センターに変更しました。六年間続いた経団連会館も評判は良かったのですが、担当学年の熱意をくみ取り、より参加者の満足が得られる内容になるものと確信しています。昨年は皆様方のご協力により、会費の納入者も増加しました。今年はさらに工夫し、振込用紙に住所やお名前を事前に印字させていただきます。これによって、皆様のお手をわずらわすことが少しでも軽減されればと考えております。

新しい執行部の体制になって早一年余りがたちました。この間も皆様のご協力と担当学年の熱意によって、六月の総会および毎月二木会を中心とする催しは順調に、そして盛大に行われました。ここに改めてご報告するとともに、御礼申し上げます。

事務局だより
新しい執行部の体制になって早一年余りがたちました。この間も皆様のご協力と担当学年の熱意によって、六月の総会および毎月二木会を中心とする催しは順調に、そして盛大に行われました。ここに改めてご報告するとともに、御礼申し上げます。

NY修猷同窓会に参加して
櫻山（宮原）ゆかり
昭和五七年卒

昨年七月二三日、ニューヨーク市内のあじさいレストランにて、修猷館高校同窓会NY晩餐会が六時半から開催されました。その日は朝から快晴でしたが、六時頃から降り出した雷雨

総会の準備から開催当日に至るまで、具体的な問題点を反省すればいいが、行方不明というの曲芸の皿回し役のようなもので、五つも六つも同時に不安定な皿を回すためには、躊躇せず自らが手を加えて回していかなければ、皿のどれかが簡単に落ちてしまい、全てが台無しになる。どこかの皿が危ないと思えば、躊躇せず手を回してまわしてやらな

いと、別の皿がまた危なくなる。その繰り返しのようなものだった。もちろんどの皿も自分で回すように設計したつもりだったが、設計検討不足もあれば、勝手に暴走してしまうこともある。それを遠慮なく調整するのが、自分なりの実行委員長の役目と信じて、それを貫こうと決めた。

そのために、十二月に実行委員長を引き受けたとき、「五か条の約束」を同級生幹事のみなさんにしてもらった。①人任せにしない、②仕事が忙しいとは言わない、③サービス業に徹する、④同級生同士で遠慮はしない、⑤意識と情報を全員で共有する、である。これは何を隠そう、身分不相応な実行委員長としての自分自身を、奮い立たせるために考えた言葉なのである。

アイランドシティ、みなさんご存じでしょうか？ 福岡空港へ向かって飛行機が高度を下げる時、窓からの景色で、志賀島・海の中道の根本部分、博多湾東部の香椎沖に見える、そう、あの埋立地です。天神から約八キロ、福岡空港から約八キロの位置に、約四〇一ヘクタールの土地が、約四〇一ヘクタールの島をつくり、国際的にも競争力のある近代的な港湾を整備するとともに、福岡市の将来をリードする創造的な先進モデル都市づくりを推進するアイランドシティ整備事業が、現在、福岡市最重要のプロジェクトの一つです。

歴史的にも地理的にもアジアに近しい福岡市は、港とともに栄えてきました。「金印（漢委奴国王）」の時代（鴻臚館）の時代、「袖の港」の時代、「太閤町割り」の時代、最近では「サイ」を通じたアジアをはじめ世界中と多

く物・人・文化・情報が交流し、国際都市として発展しました。福岡市は現在二十一世紀初頭のまちづくりの指針となる新しいマスタープラン作りに取り組んでいます。その基本方針として「自由かつ速く人々が自治都市・福岡をめざして九州、そしてアジアの中で」を掲げています。大転換期のモデルのない時代の中で知恵や創意工夫、様々な実践を積み重ね、従来の手法にとらわれない福岡方式の創造に挑戦し、新時代の都市づくりを進めていく。その実践フィールドとしてアイランドシティがあるのです。

「アジア・世界につながるフロンティア・ワールド」をコンセプトに、九州・アジアを視野に入れた新しい産業の集積、太陽光発電住宅など先進性の高い住環境の整備、安全で利便性の高い都市システムの確立、また、側にはクロッパヘラサギなどの野鳥が飛来する和自干潟があり、また、周辺海域など自然環境とも共生するまちづくりを展開いたします。

アイランドシティ、みなさんご存じでしょうか？ 福岡空港へ向かって飛行機が高度を下げる時、窓からの景色で、志賀島・海の中道の根本部分、博多湾東部の香椎沖に見える、そう、あの埋立地です。天神から約八キロ、福岡空港から約八キロの位置に、約四〇一ヘクタールの土地が、約四〇一ヘクタールの島をつくり、国際的にも競争力のある近代的な港湾を整備するとともに、福岡市の将来をリードする創造的な先進モデル都市づくりを推進するアイランドシティ整備事業が、現在、福岡市最重要のプロジェクトの一つです。

昨秋は昭和三〇・四〇年代に修猷館で教鞭を取られた懐かしい先生が二人逝去されました。一月十七日に英語の水藤勝之先生、十一月十四日に生物の尾川大録先生です。心から哀悼をお祈りいたします。ここに昭和四〇年卒のMLに流れた水藤先生への追悼文を紹介いたします。

「水藤先生、長身をちよっと前こみに、真つ白な開襟シャツの襟を上着の上に出されて、微笑みながら教室にはいつてこられたとき、英語が人に結晶したのを見たのだと思います。Englishを聴くといふ、とおっしゃったのは、先生だったのでしょうか。

何千人の生徒の英語人生の扉を開けたことを土産に、安らかに休んでください。ありがとうございます。S・A

昨年の会報十四号の表紙を飾った下った昭二六年卒の矢野眞さんの仏画が給費書にもなりました。

問い合わせ先：mac-yano@kfdion.ne.jp (柳町)

編集後記
(幹事長 渡辺俊介)

編集後記
(幹事長 渡辺俊介)

編集後記
(幹事長 渡辺俊介)

平成14年度寄付金
平成13年11月1日から平成14年10月31日までに238名の皆様から寄付金が納入されています。ありがとうございます。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬省略。卒年別。順不同)
また、年会費の納入をまだ済ませてない方は、同封の郵便振替用紙にて早速ご送金くださるようお願い申し上げます。(1口3千円。3千円以上大歓迎。3千円を超えた額は寄付扱いします)
00170-6-172892 東京修猷会事務局

鳥巣建之助（昭14）、大島毅一（昭4）、寺野元英（昭8）、富田明徳（昭9）、橋本 胖（昭11）、小山田隆、鎌田正行、篠崎春男、宮川一二（昭12）、中村浩二、高村健一郎（昭13）、戸波行平、矢崎忠太（昭14）、隈部 洋、高川正通、古川吉重（昭15）、山名 博、松尾文博（昭16）、高向賢一（昭17）、不破敬一郎、鶴田一白（昭18）、塚本 学、毛利昂志、田尻重彦、早野俊一（昭19）、ジャニイ岩橋（昭20A）、津曲浩人、山本敏男、柳田弘道、野上三男、井上博夫、田中庸夫（昭20B）、筑摩貴一、神田孝道（昭21）、木下洋一、岡崎 登、黒瀬幸正、南雲 進（昭22）、井上洋一、月成 颯、八牧将勝、松岡春樹、田尻利重、白木彬雄、篠山博厚、大西 勇、伊崎和男、荒谷俊治、中村邦也、小松頭太郎（昭23）、城崎隆郎、村上昌明、山本義治（昭25）、藤吉敏生、中上通敏、増田満昭、廣瀬貞雄、中村道生、奥村秀郎、大平 修、合谷欣一、太田 進（昭26）、福田純也、吉田 耕、都島雅男、谷川清士、神喜美子、金田久仁彦、飯田英子、難波栄彦、和栗真次郎（昭27）、柳島富男、兄玉黎子、真武保博（昭28）、永井充子、吉武寿一、元村静子、村越 登、長野倬士、長尾淑實、高木道子、高木正幸、齊藤弘子、桑原 収、井上博之、工藤國夫（昭29）、坂本幸治、城川 明、田中栄次郎、中島英股、遠山壽一、山崎 拓、久保 久、喜多村寿信、岩田至道、塩沢孝憲、澤田郁代（昭30）、柴田 悟、箱島信一、中村保夫、高崎洋一、近藤 徹、岸川浩一郎、阿部公明、伊達直哉（昭31）、小野靖記、八谷多寿子、平野照幸、林 克己、山本貞昭、野間正己、島上清明、池内正義、島居健太（昭32）、今吉淳一、緒方嘉裕、河野美和子、河野 理、城みよ子、寺澤美和子、松永貴子、吉川 浩（昭33）、笠倉紀子、服部富美子、行武賢一、荻原真也、伴 拓郎、西嶋勝彦、辻 武久、讃井邦夫、川辺敬治、加藤泰、尾崎文彦、大和博明（昭34）、隈部忠昭、松本光華、羽立教江、長谷川亘洋、中村純男、坪井正治、田代信吾、可児 晋、石橋勇之、月本一郎、佐々木真、中村清次（昭35）、安藤誠四郎、宇山博藤、木村俊道、中島成之、山本 博、横倉稔明（昭36）、大須賀頼彦（昭37）、上田 茂、渡辺俊介（昭38）、橋本正明、井手篤雄、岩本 肇、草野芳郎、久保田康史、柴田俊一、高橋登世子、野見山典康（昭39）、宮本雄二、中江 聡、棚町精子、森 秀則、筑紫勝磨（昭40）、宮原正治、渡辺耕士、野口基雄、山城喜憲、三上博民、北郷英樹、平岡珠樹、片田正行、鳥飼健（昭41）、石川 透、高本晴子（昭42）、伊豆安生、近藤景子、広瀬 豊（昭43）、深川 彰、伊藤 真（昭44）、鳥取章二、本田由紀子（昭45）、栗山英俊（昭46）、木野茂徳、塚本幸一、大島宏樹（昭47）、荒木久子、高山信彦、安田一郎、安田正俊（昭48）、井出富士雄、八尋一彦、田崎 茂、山本 周、橋村秀喜、古森光一郎、秋山忠嗣、杉浦 剛（昭49）、小林みどり、中島裕子、野中哲吉、山本治敏（昭50）、徳島 操、溝部仰起、溝口計、鐘ヶ江伸治、油田 哲、時枝一徳、小林 明、久保田馨、舟橋利周、安東泰隆、原 一郎、桐明幸弘（昭51）、鐘川誠司、釘崎篤子、高野智子、寺岡隆宏、山崎敏邦（昭52）、石川雅敏（昭53）、中原誠也（昭54）、谷口和彦（昭55）、藤原直通、井手昇、端野智幸、吉田純也、伊藤盛明、井手慶祐、荒木慎史、山中秀徳（昭58）、木田真司（昭59）、宮本拓海（昭61）、剣 彰彦（昭62）、古川真理子（平2）

めてほしい。そして、自分たちにはなし得なかったあつと驚くような総会にも、近い将来、出てみたい。

「二十一世紀アジアのキーワード「アイランドシティ」」
水町博之
(昭和五三年卒)

アイランドシティ、みなさんご存じでしょうか？ 福岡空港へ向かって飛行機が高度を下げる時、窓からの景色で、志賀島・海の中道の根本部分、博多湾東部の香椎沖に見える、そう、あの埋立地です。天神から約八キロ、福岡空港から約八キロの位置に、約四〇一ヘクタールの土地が、約四〇一ヘクタールの島をつくり、国際的にも競争力のある近代的な港湾を整備するとともに、福岡市の将来をリードする創造的な先進モデル都市づくりを推進するアイランドシティ整備事業が、現在、福岡市最重要のプロジェクトの一つです。

アイランドシティ、みなさんご存じでしょうか？ 福岡空港へ向かって飛行機が高度を下げる時、窓からの景色で、志賀島・海の中道の根本部分、博多湾東部の香椎沖に見える、そう、あの埋立地です。天神から約八キロ、福岡空港から約八キロの位置に、約四〇一ヘクタールの土地が、約四〇一ヘクタールの島をつくり、国際的にも競争力のある近代的な港湾を整備するとともに、福岡市の将来をリードする創造的な先進モデル都市づくりを推進するアイランドシティ整備事業が、現在、福岡市最重要のプロジェクトの一つです。